

**令和4年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)**

報告

背景

- ・本県では、総合型地域スポーツクラブ等の各地域のスポーツ団体や施設、福祉関係者、教育委員会等と連携し、障害者のスポーツ参加機会の拡充に向けた環境整備を推進している
- ・こうした取組を進めるためには、引き続き、スポーツへの関心が低い層へのアプローチ及び新たなスポーツの場の拡充が必要
- ・他方、東京2020パラリンピックでの県出身選手の活躍等により、県民の障害者スポーツへの関心が高まっている
- ・「令和3年度県民の健康・スポーツに関する意識調査」では、「誰もが障害者スポーツを楽しめる場」「アスリートのプレーを間近で観る機会」の提供が望まれており、今後、障がいの有無に関わらず誰もが障害者スポーツに親しむことのできる活動の場づくりを促進することが必要

事業趣旨

東京2020パラリンピックによる機運の高まりを活かし、誰もが障害者スポーツへ参加する「きっかけ」や活動の場づくり、また、新たなスポーツ活動の創出により、県民の障害者スポーツの参加機会のさらなる拡充を目指す

具体的な事業内容

- ・特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出のための取組
特別支援学校在校生、教員、保護者を対象として、パラリンピアンによる講演会・体験活動を実施
リモート等IT技術を活用し、保護者をはじめとする、スポーツ参加を支える人々への理解啓発にも繋げる
- ・マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加機会の拡充への取組
ユニバーサルビーチや海水浴・ヨット体験会等を通して、障害者のマリンスポーツへの参加を促進
障害者が安全に充実したマリンスポーツを行うため、活動を支えていく人材の確保と育成を目的とし地域の民間企業や学生のボランティアを募り活動に参加してもらう

実施報告

特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出のための取組

○高知県立盲学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室

日時：令和4年12月2日（金）

参加者 小～高等部生徒22名 教員11名 大学生ボランティア 7名

講師：パラカヌー小松沙季選手

講演：「スポーツをやっているよかったと思うこと」

体験教室：陸上、フライングディスク、ボルダリング、ゴールボール

競技用カヌーに乗る、触れる体験学習

大学生が体験教室にボランティア参加。生徒、小松選手と一緒に活動

来場できない保護者に対し、講演の様子をリモート配信



○高知県立中村特別支援学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室

日時：令和5年2月9日（木）

参加者：中学、高等部生徒79名 教員47名 大学生ボランティア 20名

講師：パラカヌー小松沙季選手

講演：「パラリンピックを体験して」

体験教室：ボッチャ、シッティングバレー

大学生が体験教室にボランティア参加。生徒、小松選手と一緒に活動

県学生徒、保護者に対し、校内別室にて講演、体験教室の様子をリモート配信

実施報告

成果

- 高知県立盲学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室
 - ・ゴールボールを教員と大学生で体験、生徒が見学し、視覚障害スポーツに対する理解が深まった
 - ・学校と協議を重ね、様々な障害の度合いに配慮した講演・体験プログラムを実施できた
 - ・小松選手の講演や生徒と大学生が触れ合うことで、スポーツへの意識や卒業後の将来的なスポーツ参加へのきっかけとすることができた
- 高知県立中村特別支援学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室
 - ・小松選手による講演、大学生による競技説明・指導を経て、生徒や保護者のスポーツに対する意欲を高める
 - ・大学生の障害者スポーツを「する」「支える」参加機会の拡充へ繋がる「きっかけ」とすることが狙い

今後の課題

- ・様々な性質や度合いの障害を持つ子どもたちにスポーツ参加の「きっかけ」を創出するためには、特別支援学校や、スポーツ関係団体等と連携し、子どもたち一人一人の障害の特性に応じた取組を継続するための支援体制づくりについて、引き続き検討していく必要がある
- ・若者のスポーツを「する」「支える」の参加機会の拡充のため、今後も大学等と連携し、大学生が障害者スポーツの体験教室の企画・運営等に参加できるよう、継続して取組む必要がある

実施報告

成果

- 高知県立盲学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室
 - ・ゴールボールを教員と大学生で体験、生徒が見学し、視覚障害スポーツに対する理解が深まった
 - ・学校と協議を重ね、様々な障害の度合いに配慮した講演・体験プログラムを実施できた
 - ・小松選手の講演や生徒と大学生が触れ合うことで、スポーツへの意識や卒業後の将来的なスポーツ参加へのきっかけとすることができた
- 高知県立中村特別支援学校でのパラリンピアンによる講演・体験教室
 - ・小松選手による講演、大学生による競技説明・指導を経て、生徒や保護者のスポーツに対する意欲を高める
 - ・大学生の障害者スポーツを「する」「支える」参加機会の拡充へ繋がる「きっかけ」とすることが狙い

今後の課題

- ・様々な性質や度合いの障害を持つ子どもたちにスポーツ参加の「きっかけ」を創出するためには、特別支援学校や、スポーツ関係団体等と連携し、子どもたち一人一人の障害の特性に応じた取組を継続するための支援体制づくりについて、引き続き検討していく必要がある
- ・若者のスポーツを「する」「支える」の参加機会の拡充のため、今後も大学等と連携し、大学生が障害者スポーツの体験教室の企画・運営等に参加できるよう、継続して取組む必要がある

実施報告

マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組

○ユニバーサルビーチプロジェクトの実施



再委託先：NPO法人 YASU海の駅クラブ
場所：高知県香南市ヤ・シパーク
実施回数：3回（うち1回はコロナ影響で中止）



「街全体で障害者スポーツを推進する」という目標を掲げ、海水浴場開放期間中に、複数回ユニバーサルビーチを設置
小松沙季選手を招致し、パラカヌーの講演・体験の場を提供した
地元のビーチイベントの開催に合わせ、多くの来場者へ障害者スポーツの理解啓発を行った
地元企業や学生のボランティアを集め、さまざまな業種の人々が障害者を支える体制を構築する
ユニバーサルツアーを実施する観光案内所へビーチの様子をリモート配信



実施報告

成果

- ・初めて海水浴を体験した車いすの子供や、ベビーカーの親子など、様々な方がビーチを楽しむことができた
- ・地元のスポーツ関係者、観光関係者、企業、住民によるユニバーサルビーチ運営を実施し、街が自立して持続可能な事業とするためのきっかけとすることができた
- ・ユニバーサルツアーの観光案内所で配信することにより効果的に広報・周知ができた

今後の課題

- ・海水浴客にユニバーサルビーチがあまり知られておらず、定着するまで継続的に実施していく必要がある
- ・より多くの障害のある方に周知ができるよう、リモート配信含めた広報・情報発信のさらなる検討が必要
- ・持続可能な事業とするため、ユニバーサルビーチを支える人材の発掘・育成が必要

【連絡先】

〒780-0850

高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号

高知県庁西庁舎

高知県文化生活スポーツ部

スポーツ課

主査 矢野 翔大

電 話 : 088-821-4649

F A X : 088-821-4716

e-mail : shoudai_yano@ken4.pref.kochi.lg.jp